



文部科学省

第4回PPP／PFI投資促進タスクフォース

令和8年4月16日（木）11:00～12:00

大臣官房文教施設企画・防災部

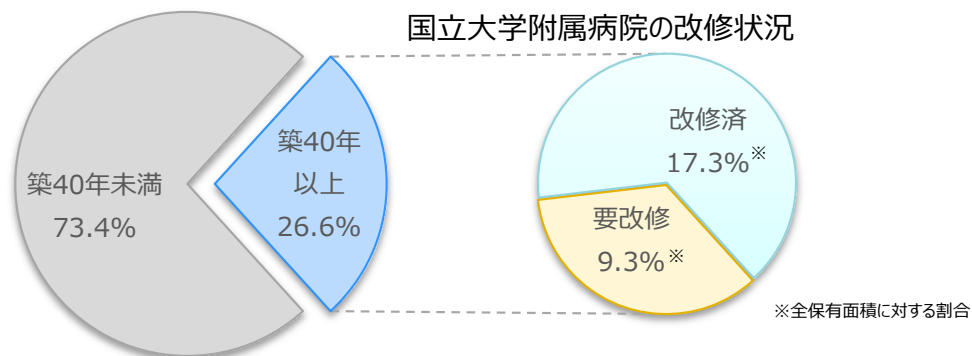
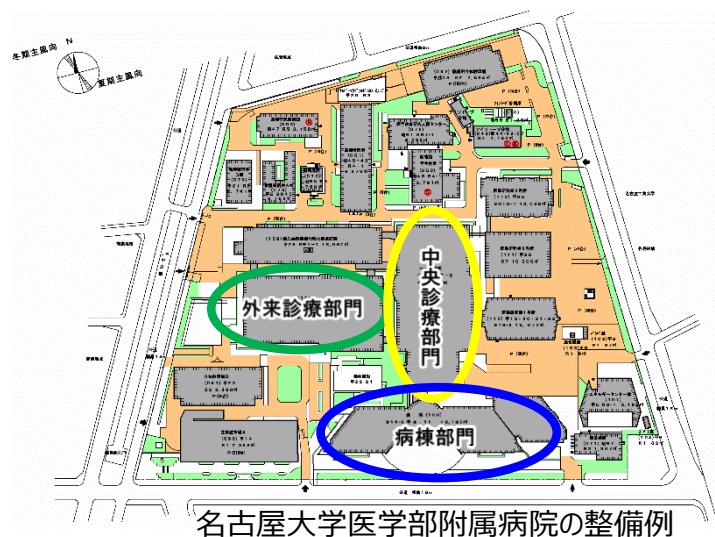
国立大学附属病院の整備状況等について

国立大学附属病院の概要

- 医師や歯科医師の養成を行う大学医学部及び歯学部の教育研究に必要な施設として設置する病院（大学設置基準第39条）
- **国立大学法人81法人のうち、附属病院を置く国立大学法人は41法人**（令和7年5月時点）

附属病院施設の整備状況等

- 1980年代から順次始まった再開発整備事業は、**現在全ての附属病院において整備を完了又は着手済み。**
- 再開発が完了した附属病院の中には、各附属病院の特色や地域における役割を踏まえた部門別の機能強化のための施設整備事業、更なる再開発整備事業や老朽改善整備を実施している附属病院もある。**築40年以上で要改修の施設は全体の9.3%**



経年	保有面積	経年	保有面積
築40年以上	958,703㎡	改修済	624,040㎡
築40年未満	2,657,970㎡	要改修	334,663㎡
合計	3,616,673㎡		

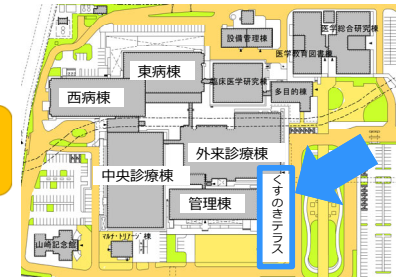
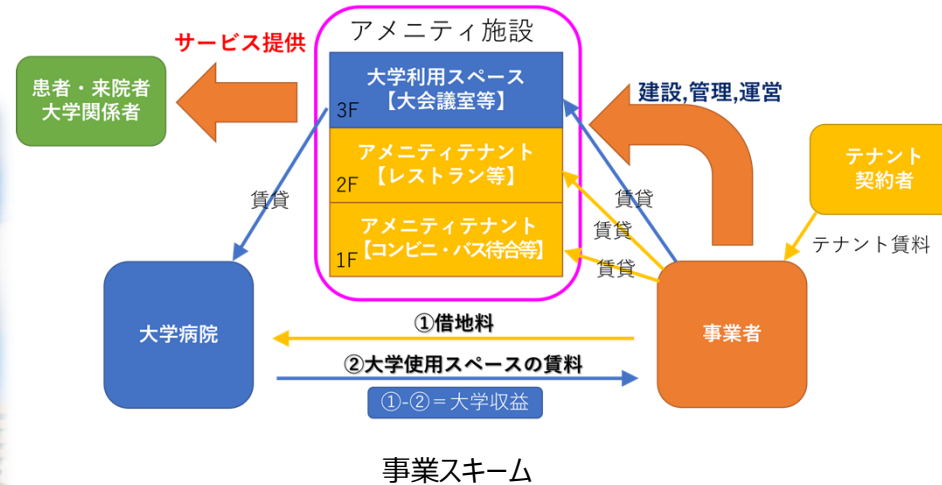
附属病院施設の整備について

- 附属病院では診療収入が得られるため、**施設整備費の9割が財政融資資金からの借入金**による。（1割補助金）（令和8年度予算：140億円（財政融資資金からの借入金を含む））
- 附属病院施設整備後、**借入金を15～30年間（据置期間含む）にわたり償還**するため、将来の医療需要等について分析を行った上で、運営方針、経営戦略、施設整備計画を策定することが重要。
- 附属病院施設は「病棟部門」「中央診療部門」「外来診療部門」の主要3部門を分棟により整備する例が多い。

国立大学附属病院の官民連携の可能性について

- ✓ 国立大学附属病院に特有の**教育研究機能の確保**や**高度医療の提供**等の役割や、**財政融資資金の償還等の資金面の特性**を踏まえ、**個別具体的な事業ごとに最適な事業スキーム**を各法人において検討することが重要である。
- ✓ 国立大学附属病院におけるPPP/PFI手法の導入については、施設の維持管理やエネルギー供給、付帯施設（食堂・カフェ等）の運営等の**非コア業務において、民間活力の活用による効率化の可能性**があると考えられる。
- ✓ **アメニティ施設（薬局等）の整備・運営**をPPPで実施している例。

熊本大学病院 くすのきテラス



所在地：熊本大学附属病院構内
建物概要：RC造+S造3階建
延床面積：2,642.66㎡

- ◆ 民間事業者が、大学から土地を借り、アメニティ施設を建設・運営
- ◆ 事業終了後、事業者は、大学に施設の所有権を移転

【今後の対応案】

- 文部科学省としては、附属病院においてPPP/PFI手法を導入している先行事例の調査分析を実施することにより、今後、附属病院施設の再開発整備を実施する予定の国立大学法人に対して事業スキームの選択肢を示すことを検討。